

**科学研究費助成事業 研究成果報告書**

平成 29 年 6 月 1 日現在

機関番号：12601

研究種目：若手研究(A)

研究期間：2014～2016

課題番号：26703003

研究課題名(和文) 中東地域の若者の労働と再生産領域におけるジェンダー関係に関する比較研究

研究課題名(英文) A Comparative Study on Youth and Gender Role in the Middle East

研究代表者

辻上 奈美江 (TSUJIGAMI, Namie)

東京大学・大学院総合文化研究科・特任准教授

研究者番号：30584031

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 4,900,000円

研究成果の概要(和文)：本研究では、「アラブの春」後の変革期における中東地域の若者男女の教育・労働、そして再生産領域におけるジェンダー関係の解明を行った。この研究の最大の成果は『イスラーム世界のジェンダー秩序』(明石書店、2014年)で公開している。本書では、エジプト、チュニジア、モロッコ、パハレーン、サウディアラビアについて、「アラブの春」に際する女性の社会運動への参加とそれらが政策決定に与えた影響、「革命」の場におけるレイプ事件などの性暴力の状況を精査した。また「アラブの春」後の状況は、政変を経験した国とそうでない国で大きく異なった。このため湾岸アラブ諸国については、女性の消費と起業活動について調査した。

研究成果の概要(英文)：This study investigated education, employment and gender roles in the private spheres in the aftermath of the "Arab Spring". A part of this study is published as a single authored book, "Gender Order in the Muslim World" (Akashi-Shoten, 2014, written in Japanese). This book clarifies histories of feminist movements, trajectories of social movements at the "Arab Spring" and women's involvement into it, as well as sexual violence against women during the revolution. The latter part of this research period is devoted to two sub-themes, due to unexpected sociopolitical changes in the Middle East. In the Gulf Arab States, women's consumption and business activities became more and more visible, through which women exercise their agency by accommodating existing social structure. The study also explored Syrian refugee women's agencies exercised by way of expressing themselves at the theatre play.

研究分野：中東地域の比較ジェンダー論

キーワード：中東 ジェンダー 若者 再生産領域 消費 企業

## 1. 研究開始当初の背景

「アラブの春」については、当初、指導者の退陣と勢力バランスの変化、民主化運動などの視点からさかんに議論された。申請者自身も、サウジアラビアおよび湾岸諸国を地域秩序のなかに位置づけて情勢変動を検討する作業を行った(たとえば土屋一樹編、辻上奈美江他、アジア経済研究所、中東地域秩序の行方、2013、131-142)。だが、人びとの生活に着目してジェンダーの視点から切り込む研究には一定の時間をかけて経過観察する必要であった。研究開始当時、「アラブの春」における抗議行動と政変をジェンダーの視点から切り込む研究に Winegar, Jessica. 2012. *The Privilege of Revolution: Gender, Class, Space, and Affect in Egypt. American Ethnologist*, Vol. 39, No. 1, pp. 67-70. および Abu-Lughod, Lila. 2012. *Living the "Revolution" in an Egyptian Village: Moral Action in A National Space. American Ethnologist*, Vol. 39, No. 1, pp. 21-25. などがあつたが、世界の中東研究をリードする北米中東学会(MESA)の2013年大会に参加し、この領域の研究が今後ますます必要となることを痛感した。

研究開始当時には、従来の研究では十分に扱えなかったテーマも残されていた。それは「アラブの春」を機に中長期的変革期を迎えた中東地域において、抗議行動の初期の中心的アクターでもあつた若年層男女の教育、労働状況がどう変化しているのか、そしてそのことは私的領域(ここでは労働によって代表される生産領域と対比的に再生産領域と呼ぶ)にいかなる変化を与えているのかというテーマである。

研究開始時、「アラブの春」が経済や産業構造にもたらす中長期的影響が無視できないレベルに達しようとしていた。これまで観光業に依存してきたチュニジアやエジプトでは、革命後の政情不安のために観光業が打撃を受けていた。湾岸産油国では、オイルブーム期以降の外国人労働者への依存が慢性化し、他方で高い出生率を維持してきたため人口が急速に成長し、若者が職に就けない問題が浮上していた。これらの経済・社会問題を踏まえ、本研究では、産油国と非産油国の若者の労働の動向と再生産領域における男女間の権力関係を探ることに主眼を置くこととした。

## 2. 研究の目的

本研究は、「アラブの春」を機に変革期を迎えた中東地域において、若者男女の労働状況がどう変化したのか、またそれともなつて再生産領域におけるジェンダー関係がどのような影響を受けたのかについて多角的に考察することを目的としていた。

産油国・非産油国はそれぞれに異なる社会経済状況に直面していたものの、いずれも家

父長制的特徴が顕著ではあるが、同時に男性の失業によってマスキュリニティが危機に晒される点で共通しているように考えられた。これとは対照的に、女性の教育レベルは各国で向上し、労働参加を希望する女性は増加している。湾岸諸国では、女性の高等教育進学者が男性を上回る現象が起きており、また労働市場では政府主導でエリート女性を政府の主要ポストに配置する「分節化されたフェミニズム」(Willoughby, John. "Segmented Feminization and the Decline of Neopatriarchy in GCC Countries of the Persian Gulf," *Comparative Studies of South Asia, Africa and the Middle East*. 28 (1), 2008. pp. 184-199.)が起きていた。

男性の失業や女性の労働参加を通じて、ジェンダー関係は次第に変化すると考えられる。しかしながら、これまでに申請者が実施した現地調査では、チュニジアのような比較的法的ジェンダー平等が実現してきた国においてすら、女性が家事を負担している構図に変化はないことが明らかになっている。家事労働者の雇用が一般的な湾岸諸国でも、家事や育児は妻や母親が担うべき役割とされている。「アラブの春」によって、女性は抗議行動で要求を表明する存在として新たに認識されたが、他方で社会経済構造の変化によって女性は仕事と家事との二重の負担を負うようになるのだろうか。また、サウジアラビアでは子どもや老人のケアは外国人労働者に外部化される「ケアの家内外注」が一般的であつたが、女性の労働参加と女性政策立案者の誕生によって、保育園や幼稚園設置にむけた議論が進められている。今後、ケアの家庭外での外注が進展すれば、中東地域の家族の形態はどのように変化するのだろうか。マイケル・ダグラスが「グローバル・ハウスホールディング」と呼んだ、再生産領域こそグローバル化にもっとも晒されやすいという議論との関連からも、中東地域の再生産領域について詳しく調べる必要があると思われた。

## 3. 研究の方法

本研究は当初、中東地域の産油国および非産油国について、1)若年層男女の労働/失業、人材育成に関する基本的状況の整理と解明、2)再生産領域における男女の権力関係の解明、3)ケアの外部化状況とケアテイカーとしての女性の役割の解明の三つの相互に関連するサブテーマによって構成されていた。いずれも文献調査および現地調査によってデータを収集することを予定していた。これらを明らかにするために研究期間の前半では、エジプト、チュニジア、モロッコ、サウジアラビア、バハレーンにおける女性による社会運動の歴史、「アラブの春」における女性の抗議行動への参加状況を整理して単著(図書)としてまとめた。

だが、研究期間中に、シリアのように政治

社会および治安情勢の不安定化に歯止めがかからなくなった事例も出てきた。そこで、研究期間後半では、シリアのような女性を含む人びとの国内外への移動が起きた国と湾岸産油国とを切り分けて調査研究を進めた。具体的には、シリアについては IS における女性の理想像を探る研究(図書)や、国外への避難を余儀なくされた女性たちの演劇を通じたエイジェンシーの発見(図書)をおこなった。また、湾岸諸国では、女性の消費行動、起業活動および家計負担について現地調査を中心に調査研究した。

#### 4. 研究成果

本研究の主眼は、社会的弱者として見なされがちな中東地域の女性のエイジェンシーを見出すことにある。本研究期間の前半には、中東諸国における女性による社会運動の歴史、「アラブの春」における女性の抗議行動への参加状況とそれらが政策決定に与えた影響、そして「革命」の場におけるレイプ事件などの性暴力の状況を精査し、整理して単著として出版した(図書)。同書は代表者が勤務する東京大学をはじめとする複数の大学において学部レベルの授業用教材として使用されている。

研究期間後半には、湾岸諸国の再生産領域におけるジェンダー関係を精査するためには、女性の教育・労働、政治参加に加えて、消費動向や女性の起業活動について調査することが有効であることに気づいた。そこで、雑誌論文、などを公開し、消費と起業から女性のエンパワーメント、ひいてはジェンダー関係の再編の可能性を見つめ直す作業を行った。この研究を通じて、公共領域における男女平等を過大評価するリベラル・フェミニズム的発想から脱却するための重要な一歩を踏み出すことができた。また、女性たちが表向きの家父長制を維持しつつも、無視できない消費アクターへと成長したことによって、結果的に再生産領域のみならず生産領域への進出も盛んになっていることが明らかになった。

また、同研究期間中、シリアやイラクでは IS の出現や大規模な難民発生を経験することとなった。本研究では、図書や図書を発表して、政治社会情勢の危機に直面した女性たちのエイジェンシーに着目した。

中東地域の政治社会経済情勢は「アラブの春」以前から多様であったが、同研究期間中の情勢変動のために、単純に国家間比較することが極めて困難となった。本研究成果を、このように切り分けて発表しなければならなかったことも、このような状況を如実に示していると言える。

これらの研究は、湾岸諸国の女性の消費・起業に関しては 2017 年度より基盤研究 C として、シリア難民女性については 2017 年度より新学術領域研究の公募研究として継続・発展させる予定である。

#### 5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文](計 12 件)

辻上奈美江、文化・娯楽・スポーツと女性：変革を迫られるサウジの社会・文化規範、中東協力センターニュース、査読なし、41 巻 12 号、2017 年、pp.13-21

辻上奈美江、英国政府の湾岸人観光招致と女性の消費、中東協力センターニュース、査読なし、第 41 巻 8 号、2016 年、pp. 22-33

辻上奈美江、サウジアラビアの女性の消費と企業-商業インフラの発展と女性化に関する考察-、中東協力センターニュース、査読なし、第 41 巻 4 号、2016 年、pp. 23-32

辻上奈美江、サウジ連合軍によるホーシー派攻撃とムハンマド副皇太子のプレゼンス、アジ研ワールド・トレンド、査読なし、22-6(248)、2016 年、pp.16-19

辻上奈美江、2015 サウジ地方選：女性参加のインパクトは？、中東協力センターニュース、査読なし、第 40 巻 12 号、2016 年、pp. 11-19

辻上奈美江、サウジアラビアの『内在する他者』としてのシーア派、外交、査読なし、Vol.35、2016 年、pp. 71-73

辻上奈美江、ムハンマド・ビン・サルマン副皇太子の外交デビューと王族内王族批判、中東協力センターニュース、査読なし、第 40 巻 7 号、2015 年、pp. 18-25

辻上奈美江、イエメン攻撃に見るサルマン新体制、中東協力センターニュース、査読なし、第 40 巻 1 号、2015 年、pp. 17-23

辻上奈美江、サルマン新国王の誕生とサウジアラビア情勢変動の予兆、中東協力センターニュース、査読なし、39 巻 6 号、2015 年、pp.67-72

辻上奈美江、恋愛結婚が許されないサウジアラビアの出会いと結婚、アジ研ワールド・トレンド、査読なし、2014 年 8 月号(No. 226)、pp. 30-31

辻上奈美江、湾岸アラブ人とのビジネス成功への鍵、土木学会誌、査読なし、2014 年 5 月号、pp. 12-15

辻上奈美江、サウジアラビアにおける高等教育の拡大と女性の将来、中東協力センターニュース、査読なし、38 巻 6 号、2014 年、pp. 80-85

[学会発表](計 6 件)

辻上奈美江、A Strategy of Surviving Patriarchy: Women's Family Network、日本中東学会第 32 回年次大会、2016 年 5 月 15 日、慶應義塾大学(東京都港区)

辻上奈美江、Intimate Matrilineal Network as Strategy within Patriarchy、2015 Annual Meeting Middle East Studies Association、2015 年 11 月 23 日、デンバー(米国)

辻上奈美江、Establishment of A Women ' s University and Changing Aspirations of Women in Saudi Arabia、Gulf Research Meeting 2015、2015年8月25日ケンブリッジ (英国)

辻上奈美江および Waffa Al-Tuwaijri、Challenges Facing the Academic Leaders in Saudi Arabia and Japanese Universities、The Gulf Comparative Education Society、2015年4月16日、ドバイ(アラブ首長国連邦)

辻上奈美江、Saudi Women ' s Negotiation of Power and Space through Driving Campaigns、2014 Annual Meeting Middle East Studies Association、2014年11月24日、ワシントン DC (米国)

辻上奈美江、『アラブの春』による身体管理と表象、そして女性のエージェンシー、国際政治学会 2014 年度研究大会、2014年11月15日、福岡国際会議場(福岡県福岡市)

〔図書〕(計 8 件)

私市正年・浜中新吾・横田貴之編著、辻上奈美江他、明石書店、中東・イスラーム研究概説 政治学・経済学・社会学・地域研究のテーマと理論、2017、280-285

山内昌之編著、辻上奈美江他、朝日新聞出版、中東と IS の地政学、2017、231-247

Dale Eickelman および Rogaia Mustafa Abusharaf 編著、辻上奈美江他、Gerlach Press、Higher Education Investment in the Arab States of the Gulf: Strategies for Excellence and Diversity、2016、42-54

Ehteshami, Anoushiravan および Miyagi, Yukiko 編著、辻上奈美江および堀抜功二他、Routledge、The Emerging Middle East- East Asia Nexus、2015、85-93

塩尻和子編著、辻上奈美江他、明石書店、変革期のイスラーム社会の宗教と紛争、2015、117-130

細田尚美編著、辻上奈美江他、明石書店、湾岸アラブ諸国の移民労働者―「多外国人国家」の出現と生活実態、2014、101-115

椎野若菜編著、辻上奈美江他、人文書院、境界を生きるシングルたち―シングルの人類学、2014、127-144

辻上奈美江、明石書店、イスラーム世界のジェンダー秩序、2014年

〔その他〕

ホームページ等  
大学ウェブサイト

<http://park.itc.u-tokyo.ac.jp/UTCMES/teacher/113.html>

個人ウェブサイト

<http://namie-tsujigami.urdr.weblife.me/index.html>

ヤフーオーサーページ

<http://news.yahoo.co.jp/byline/tsujigami>

minamie/

6. 研究組織

(1) 研究代表者

辻上 奈美江 (TSUJIGAMI, Namie)

東京大学・大学院総合文化研究科・特任准教授

研究者番号：30584031